

別紙 2

山陽小野田市まちづくり市民会議 会議概要

部 会 名	合併特例債活用事業検討部会
開催日時	平成 2 1 年 1 0 月 2 9 日 (木) 1 9 時 0 0 分 ~ 2 1 時 0 0 分
開催場所	市役所 3 階大会議室
出席委員	2 1 人 (欠席 1 人・委員辞退 1 人)
出席職員	市長・副市長・企画政策部長・広報広聴課 2 名・企画課 5 名・教育委員会 9 名
協議の概要	<p>○市長あいさつ 委員 1 名が辞退された報告</p> <p>○議事 (教育委員会策定案を原案、委員提出案を対案と表記) 【学校施設耐震化事業について】 教育委員会から前回に続いて原案の概要説明 1. 子どもたちの安全・少子化へ対応した教育効果の高い形・地域の将来性の観点から原案を策定。</p> <p>【主な質問と回答について】 問：原案資料「学校施設耐震化事業」の“それ以外の学校”とはどこの学校か。厚陽、埴生小中・津布田小を除く全ての学校か。 答：厚陽、埴生小中・津布田小を除く全ての学校から有帆小・高泊小・竜王中を除いた学校である。これら 3 校は耐震基準が改正された後に建築された校舎であるため耐震化の必要はない。</p> <p>問：原案において厚陽地区、埴生地区の統合を考えないで耐震化のみの事業をすれば事業費と合併特例債はいくらか。 答：概算数値で事業費は厚陽地区約 5 億円、埴生地区約 5 億円、その他地区約 2.5 億円で合計約 3.5 億円。事業費のうち合併特例債は厚陽地区が約 3.5 億円、埴生地区が約 3.5 億円、その他地区が約 1.2 億円で合計</p>

約19億円。

**【統合問題を除く学校耐震化事業についての結論】**

統合問題を除く耐震化事業については合併特例債事業として承認する。

問：今後の予定と予算措置は。

答：一部I s 値の低い学校で統合とは関係ない学校については今年の9月補正で予算化している。できるだけ早く次の作業に着手したい。

問：原案について人口の多い地域での小中統合は効果があるが、10年後には小中ともに1学年1クラスになる地域での合併はクラス数や部活等を考慮すると適正規模の観点からはどうか。

答：地域の将来性等も考慮し、各地域に学校を残す形で考えている。統合の場合には地域の住民の考えを第一に考える。

問：小中統合についての地域の意見はどうか。

答：PTAの執行部等に説明を行った。地域に学校を残してほしいとの意見が多かった。原案を進めることについて概ね反対はなく賛同を得ていると考える。

問：地域住民の総意はどうか。一部の保護者だけの意見ではないか。

答：今後は全保護者、地元地域へと説明を進めて行きたい。

問：統合によって子どもの通学はどうか。避難場所としての役割はどうか。

答：避難場所はきちんと確保する。

問：厚陽校区は今後の出生数が少ない。学校運営できるのか。地域から学校をなくさないという考え方は理解できるが、子どもの側からも、今後の児童数や学級数等を見極め検討してほしい。

答：国が示す標準学級数を満たしているのは全国で30%にも満たない状況で、複式学級のある学校は15%にも及ぶ。こうした中、他市では学校を地域の核として位置づけ、授業科目によっては他校との交流を実施している例もある。

問：話の進め方として、まず保護者と子どもを交えて意見集約をし、それからPTA等と話をすべきではないか。突然PTA役員に回答を求められても学校の将来を左右することなので判断できない。統合関係の学校だけではなく地元の保護者にも広く意見を聴くべきだ。

答：学校の保護者の合意がなければ事業は進まない。市民会議で議論する前に地元の保護者に説明すべきと考えた。地元の保護者がどう思うかが一番重要だと考える。全市民向けには10月1日号の広報で教育委員会の考え方を掲載している。時間的問題もあり、まずPTA役員それから保護者と考えた。説明は決定事項としてではなく、教育委員会の考え方を説明したつもりである。

問：対案の三中統合案がふさわしくないと考える理由はなにか。

答：地元での市政説明会では、地域の方は賛同していないと聞いている。厚陽中ではPTAの役員会において全会一致で小中連携に賛同いただいている。地元中学校がなくなることに対して反対する人が多い。地元の理解なしには事業はできない。

問：三中統合の場合はどこが想定されるか。

答：一般論として一番規模の大きい厚狭中を考えるが、敷地が狭いように感じる。新しい場所で新規に土地を購入することになるのか。

問：対案における候補地はどこでもよい。案として新幹線駅があるので駅南地区はどうか。

答：土地購入は相手がありなかなか困難である。時間もかかる。

問：今後クラブ活動について成り立つのか。

答：放課後にどこかの中学校に集まりクラブ活動をすることもできる。大会にも出場できる。

#### 【その他意見等】

- ・平成19年11月22日策定の学校適正規模・適正配置基本方針では、小中一貫校についてはわずか2行しか触れられていないのに急にこの話が進んできた。
- ・小規模校のメリット、デメリットを示してほしい。
- ・いい学校をつくり若者の定住を促進してほしい。
- ・中学生の目線で考えてほしい。
- ・地域のことは地域で考えればよいのでは。
- ・生徒数が多いと、それだけ多くの経験ができる。競争心の中で仲間ができる。中学校は統合し小学校はそれぞれで補強したほうがよい。
- ・地域に学校を残すのが最優先とは思えない。子どもが主役の学校なので、少人数では教育環境は整わない。
- ・厚陽中の建物の耐震性に不安がある。
- ・少子化が進むためそれに対応していかなければならない。
- ・三中統合の候補地として埴生の青年の家あたりはどうか。
- ・地域の特性を生かして現在の場所で工夫しながら教育する考え方もある。
- ・学校はクラブ活動だけではない。子どもは地域で育てるという考え方もある。

- ・厚陽校区の子どもたちが高泊小・高千帆中に行くことも考えてほしい。
- ・全体の財政計画を見据えて議論すべきではないか。
- ・小学校と公民館が一体となった施設を検討してほしい。
- ・どちらの案でも、子どもたちが学校に行きたいと思える学校にしてほしい。
- ・対案について委員で候補地の選定等を行うのは困難。

**【まとめ】**

対案（三中統合案）も魅力的ではあるが、この対案については第二次案として教育委員会に議案の提出を準備して貰う。まず原案を補正予算の議案として議会に出す。

**【次回開催日】**

11月6日（金）19：00～市役所3階大会議室  
学校給食共同調理場整備事業について検討する。